

なかやみわ

JOSHIBI no.187



最後の作品を

手がける意気込みで。

「そらまめくんのベッド」「くれよんのくろくん」などの人気絵本を世に送り出してきた作家、なかやみわ氏。時代を超えて愛される作品を生み出してきた氏は、一作「作に」「これが私の最後の作品」というほどの気持ちを決めてきたと明かします。 Photo 川瀬 絵 Text 立古和智



子

子どもの頃から絵を描くのが好きで、ずっとイラストレーターになることを夢見てきました。とはいえずイラストレーターになるのは大変そうだし、まずは私の父と同じグラフィックデザイナーを目指そうと思い、女子美に進みます。デザイン事務所などで働きますが、絵を描くチャンスを得てイラストレーターになろう。そんな風に思っていた私ですが、女子美の中でも突出した才能はなかったと思います。センス良くいろいろな絵が描けるタイプでもありませんでした。今思えば時間のある学生時代に、もっとデッサンに励むべきでしたね。デッサン力はものづくりの土台として役に効いてきます。在校生のみなさんは、今しか時間がないと思うて頑張ってくださいね。いずれにしても「普通は普通なりに普通にやればいいか……」といったタイプだった私が、狭き門である株式会社サンリオに入社できたのは、女子美にいたからこそです。同社には女子美のOGが大勢いて、私も親切なOGの方にアドバイスをいただきました。その出会いに恵まれないければ、まず採用されなかったはずです。

ちなみに、女子美は卒業後にも価値を感じる学校で、クリエイティブな事に携わっているとOGの方に頻繁に出会い、そこから新たな仕事へと発展します。キャラクターデザイナーを夢見て入社したサンリオでは、トレンドを吸収しながらいろいろな有名キャラクターをアレンジする仕事などに携わりました。ただトレンドを器用に採り入れることができないように、流行廃りのペースが速すぎて私には向いていませんでした。そう感じだした頃に出会ったのが、古くからある絵本です。私は「おさるのジョージ」や「ぞうのババル」「パーババ」といった海外のキャラクター絵本が好きで、その売場に寄った際に、子どもの頃に読んでいた日本の絵本「ぐりとぐら」や「だるまちゃん」とんぐちゃん」が平積みされているのを目にします。私がトレンドの移り変わりとともに消えていく仕事に追われている一方、これらは時代を超えて子どもたちから愛され続けている。「私もこんな色褪せない仕事をしたい」と感じてからは、絵本教室に通うようになり、1年が過ぎた頃にはサンリオを辞めます。そして3年間だ

けアルバイトをしながら絵本作家をめざすと決意。今思えば、そんな挑戦ができたのも女子美では短大だったからです。当時23歳。挑戦の末に芽が出なくても26歳なら、やり直せます。これも短大を選ぶ良さですね。実際、私は26歳になる1997年の春に、絵本作家としてデビューを果たします。頑張ったからといって、叶うかわからない夢を追うのは怖いのですが、美大に進む人たちは、描くことや創ることが取り柄なので、自分の可能性を信じて夢を貫いてほしいですね。もちろんデビューできたからといって、ずっと作家でいられる保証はありません。いい作品を出し続けることが一番大事で、私の場合はデビュー作にして代表作となった「そらまめくんのベッド」の制作に1年を注ぎ込めたのが幸運でした。おかげで読者からも好評で、現在までに125万部が売れています。その後、作家としての地位が安定したのは29歳のときに二作目「くれよんのくろくん」がヒットしたからです。それを機に仕事の幅がグッと広がりました。本というのはいろんな人の力を借りて、ようやく世に出るものだから、

世の中から消えない作品にしたいもの。ここで肝心なのは読み手の心に響く、時代に左右されない普遍的な魅力を添えることです。私の場合は、読者が求めるものを追求したことで、作品にそんな魅力を持たせられたのだと思います。いずれにせよ、自分の創作欲から始まった絵本作りも、私の作品を求める人が大勢いる今となつては、「期待に応えたい」を原動力とするようになりました。

今年で作家になって20周年を迎えますが、絵本作家には長寿の方が多いから、私はいまだ中堅です。それなのに私はいつ引退してもいいという心境です。安室奈美恵さんも浅田真央さんも全力を出し切つて未練がないから引退を選びましたが、私も常に「これが最後の作品だ」として「作」に全力を注いできたからこそ「引退してもいい」と思えるのでしょうか。もちろん必要とされれば応えていきたいですが、いつ辞めても後悔しないくらいの意気込みで、これからは携わっていくつもりです。



(福音館書店 刊)



(童心社 刊)

なかやみわ

1992年、女子美術短期大学造形科グラフィックデザイン卒。サンリオのデザイナーを経て、1997年に「そらまめくんのベッド」で絵本作家デビュー。「そらまめくん」シリーズ(福音館書店・小学館)は累計333万部を突破。ほかに「くれよんのくろくん」シリーズ(童心社)、「ばすくん」シリーズ(小学館)、「どんぐりむら」シリーズ(学研プラス)、「やさいのがっこう」シリーズ(白泉社)、「こくまのくうびい」シリーズ(ミキハウス)など、数多くの絵本を手がける。

「なかやみわ 絵本の世界展」

会期:2018年6月30日～8月19日

会場:一宮市三岸節子記念美術館

(愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1 / TEL. 0586-63-2892)

<http://s-migishi.com>

デビュー20周年を記念して、人気絵本シリーズの原画100点以上とラフ画などを展示。ワークショップや講演会、サイン会なども開催される。「女子美の大先輩である三岸節子さんの記念美術館で、20周年の企画展を開催させていただけることを、大変うれしく感じています」(なかやみわ)



「オール女子美」の展覧会

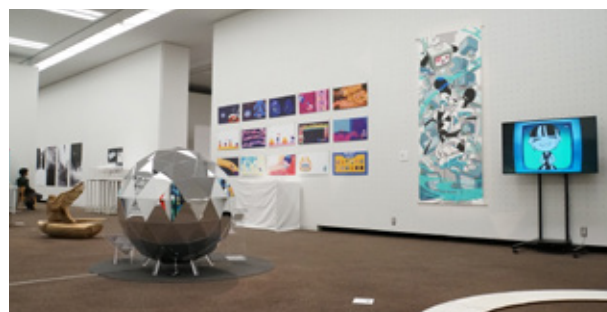
「JOSHIBISION 2017」アタシの明日「」、開催

今回で3回目となる「JOSHIBISION 2017」アタシの明日」が、3月1日〜7日まで東京都美術館で開催されました。タイトルの「JOSHIBISION」は「JOSHIBI×EXHIBITION×VISIONをこなだ造語で「いまを生きる、等身大の学生たちのさまざまな視点が集まり、ともに未来を見つめていこう」というメッセージが込められています。「オール女子美」のスローガンのもと、大学院、芸術学部、短期大学部、それぞれの研究室から選抜された35名の作品と、付属高校の卒業制作を一同に展示。絵画、立体、デザイン、工芸、デザインワークに映像、ファッションなど、在学生が自身の今と未来を見据えて制作した大作が展示フロアに集結しました。昨年に引き続き本イベントのディレクターを務めた短期大学部造形学科教授山本雄三先生のディレクションにより、今回は在学生だけでなく卒業生の作品も特別展示。本学を卒業後、

国内外に活躍の場を広げアーティストとして精力的に活動している飯嶋桃代さん、大小島真木さん、小松美羽さん、中村美穂さん、西田知世さんの5作品が会場を一層彩りました。展覧会初日にはオープニングレセプションも開催。本学名誉理事長の大村智先生、特別招聘教授の假屋崎省吾先生、本学卒業生でハローキティデザイナーの山口裕子氏、美術史家の本江邦夫氏、アートディレクターの植原亮輔氏、モード・イラストレーターEd TSUWAKI氏、クリエイティブディレクターの菊池宏子氏、NHKデザインセンターチーフプロデューサーの森内大輔氏ら8名を審査員としてお招きし、各審査員の名前を冠した賞の発表と表彰式を執り行いました。また、会場にはさまざまな企業、画商、ギャラリーの方々にもお集まりいただき、出展学生にとって美術・デザインに関わるさまざまな方と意見交換や交流ができる貴重な機会となりました。



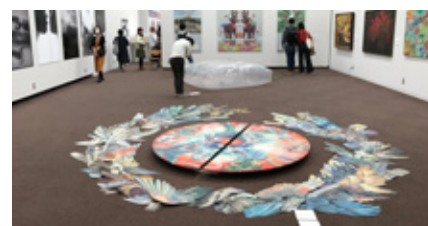
大村智賞 芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域4年 中山弥佳



假屋崎省吾賞/本江邦夫賞 短期大学部造形学科デザインコース創造デザイン2年 稲越美咲



植原亮輔賞/菊池宏子賞/森内大輔賞 芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻4年 阿部和佳奈



Ed TSUWAKI賞 大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻ファッションテキスタイル研究領域2年 野々上 澄



山口裕子賞 大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻メディア研究領域2年 奥原知奈

上海 / Shanghai Joshibi Art Gallery Award賞 (同佳作)



「みている風景」 藪奥晴奈
大学院美術研究科博士前期課程美術専攻洋画研究領域



「聞こえる」 吉田晴美
大学院美術研究科博士前期課程美術専攻日本画研究領域



「黒・白」 張芸瑋
大学院美術研究科博士前期課程美術専攻立体芸術研究領域



「季節ソング」 俞思懿
大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域



「四季」 福岡 蘭
大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻プロダクトデザイン研究領域



「明かす」 膳棚久稔
大学院美術研究科博士前期課程美術専攻日本画研究領域



中国・上海で
「第3回 大学院生ドローイング
コンペティション展」開催

上海 / Shanghai Joshibi Art Gallery Award 佳作

大学院美術研究科博士前期課程美術専攻洋画研究領域

- 伊藤夏実 「the head」
- 石渡明紀帆 「何も知らずに私は生まれた1・II」
- 西川絵里 「ground4-1」
- 久保美貴 「Garden 1・II」「海」
- 工藤亜希子 「No.1 2 3」

大学院美術研究科博士後期課程美術専攻美術研究領域洋画研究分野

- 朝倉優佳 「the face」

大学院美術研究科博士前期課程美術専攻日本画研究領域

- 吉田晴美 「愛のむこう側」
- 中島 彰 「しま」
- 陳 馨 「青い海で、昔のことを沈ませる」
- 史 凡 「朝顔」
- 膳棚久稔 「意図の外」

大学院美術研究科博士後期課程美術専攻美術研究領域日本画研究分野

- 藤原守希子 「清流の淀み」

大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻メディア研究領域

- 奥原知奈 「モームの電話」
- 馮曉知 「少女の夢」

大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域

- 藤原未来 「流」 卓 樹 「NENDO」
- 池 晶 「世界」 欧陽子璇 「石は走っている」「stone」
- 史 歌 「シーズン」 藤井有紀 「power」

本学大学院生によるドローイングの競演「第3回 大学院生ドローイングコンペティション展」が中国・上海で開催されました。本学と学術交流のある上海交通大学内のギャラリー開明画院で開催され、洋画のみならず日本画、立体芸術、ヴィジュアルデザイン、メディアなど多岐にわたる大学院研究領域から作品が集まりました。紙を支持体とする30号以内のドローイング表現の作品およそ50点から、展覧会最終日に上海交通大学の先生方の審査により「上海 / Shanghai Joshibi Art Gallery Award 賞」として6作品が選出。受賞者には上海交通大学より記念品が授与されました。海外での展示が初挑戦という女子美生もいれば、母国に凱旋展示する中国人留学生も参加、そんなグローバルな作品発表の機会をこれからも本学は提供していきます。

特別公開講座 宇宙・人間・アート

芸術学部アート・デザイン表現学科では、広い視野でアートを考えていくことのできる人材育成を行う一環として、各界の第一線で活躍されている先生方を講師にお迎えし、一般の方も聴講可能な特別公開講座として「宇宙・人間・アート」の授業を開講しています。



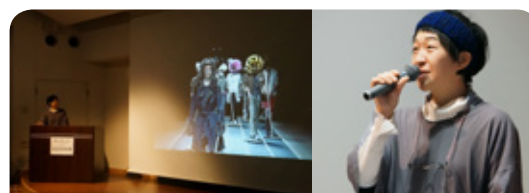
大村智名誉理事長
「私の研究と社会貢献」

2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智名誉理事長をお招きした特別公開講座では、長きにわたり取り組んでいる研究についてご紹介いただいたほか、社会貢献につながった活動やノーベル生理学・医学賞受賞に至った背景についてお話いただきました。「アートはこれからどのような形で人に役立つことができると思いますか」という聴講者からの質問には「現在、さまざまなロボットが開発されて人に近づいていますが、ロボットにできないことは『情緒を身につけること』です。優れた芸術の創造には情緒がとても大切な役割を果たすと私は考えています。美術に携わる人には、身につけた情緒を世の人々に伝え養っていく役目があると思います」とお話くださいました。



いせひでこ客員教授
「いま、絵本を描くということ」

デジタルツールでポスターや絵本が制作できる時代だからこそ「いま、絵本を描くということ」とはどのようなことなのか。いせひでこ客員教授による特別公開講座では「記憶」をキーワードに絵本制作についてお話いただきました。日頃から透明水彩やアクリル絵の具など、物語によって使用する画材を変えて制作をしているいせ先生。震災により全村避難になった子どもたちに「生まれてきたからには、生きて欲しい」というメッセージを込めて緊急出版した『木のあかちゃんズ』の制作話や、お孫さんがさまざまな「はじめて」を身体に記憶させた瞬間のお話、詩の絵本化という難しい仕事のとき、自身のはじまりの記憶までさかのぼって絵本を描いたことなどをお話いただきました。



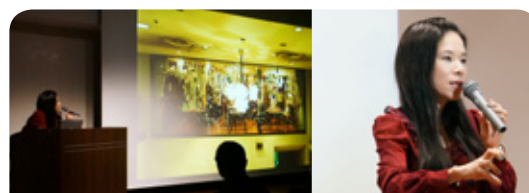
宇津木えりさん
「挑戦して楽しむ」

本学卒業生でファッションデザイナーの宇津木えりさんによる特別公開講座では、自らデザイナーを務める「mercibeau coup,」のコレクションについて、テーマや服のコンセプト、モデルが歩くランウェイの工夫をご紹介いただき、服が大好きだった幼少期から女子美に入学するまでのエピソードや、パリへの留学経験、就職から現在に至るまでをお話いただきました。講演の最後には聴講者に向けて「私にとってファッションとは夢のあるもの。本当の意味で美しいものが作れる、表現できる人間になりたい。これからも学んで磨いていきたいと思っています。みなさんも夢をたくさん持って頑張ってください。今日を精一杯頑張らしましょう」とメッセージをいただきました。



吉村作治先生
「エジプト発掘の魅力」

エジプト考古学者であり早稲田大学名誉教授、また東日本国際大学学長である吉村作治先生をお招きし、特別公開講座を行いました。講座のテーマは「エジプト発掘の魅力」。前半では、電磁波探査レーダーを駆使した遺跡調査の専門的なお話から、実際にエジプトで遺跡を発掘する際に雇う人材確保の仕方、発掘費用についてなど、普段は聞くことのできない体験談をお話いただきました。後半では、吉村先生が実際に発掘をした遺跡や出土品を写真とともに紹介。発掘された遺跡の当時の使われ方や、ピラミッド内部の構造からわかる墓の意味など、エジプト文明の説明を交えて詳しく解説いただきました。学生にとってエジプト文明に触れる貴重な時間となりました。



秋山さやかさん
「あるく半 ノラ猫の旅人」

現代美術家として国内外で活躍し、訪れた土地と自分との関係性を針と糸を使って色とりどりに紡ぐ創作で知られる秋山さやかさん。「あるく半 ノラ猫の旅人」をテーマにご講演いただいた特別公開講座では、これまで発表してきた作品の数々について、当時の出来事や創作時の試み、作品一つひとつに込められた想いなどをたくさんの写真を投影しながらご紹介いただきました。また、自身が携わったさいたまトリエンナーレ(2016年)での作品制作や、上海(2014年)・イスラエル(2017年)で行った創作活動については、現地では出会った人々や風景、食べ物にまつわる思い出も語られ、会場に集まった聴講者は秋山さんが紡ぐ創作の世界に引き込まれていました。



小笠原 たけし
芸術学部 アート・デザイン表現学科
メディア表現領域
特任教授

メディアアート・デザインの世界では技術進歩が目まぐるしく、毎日のように新しいものが生まれいてとてもワクワクしますが、新しいものを生み出しているのは他人だけの話ではなく、自分でもそれができるといことです。作品は時代を変えらる力をもっています。そして今はそれを世界に発信できる環境も整っています。あっと言わせる作品、びっくりする作品、とんでもない作品で、楽しく快適な時代を作っていくってください。

1962年東京都生まれ。芝浦工業大学卒業、カシオ計算機研究開発を経て、独立しデザイン業界へ。2006年より同大学非常勤講師。日本CGグラフィック優秀賞など。デジタル・イメージ、アジアグラフィック所属。



吉田 貴子
芸術学部 デザイン・工芸学科
環境デザイン専攻
特任教授

デザインは私たちの暮らしのあらゆる場面に反応を興じます。モノとモノ、モノと人、人と空間…。出来上がったものが何かの反応を興して広がり、誰かを楽しませたり、幸せにするのがクリエイションの力です。社会に、未来に、新しい何かを創り出す意識を持って、そのプロセスにハマってください。女子美生という時間の中で、自分の中の「創造する楽しさや共感を得る喜び」を育ていきましょう。

1965年三重県生まれ。京都市立芸術大学デザイン科卒業、近藤康夫デザイン事務所勤務を経て、独立。商業施設の環境デザインを中心にショップや展示空間など、様々な空間デザインを手掛ける。



南島 隆
芸術学部 アート・デザイン表現学科
アートプロデュース表現領域
特任教授

△、□、◇は◇。◇は△。……………。
あなたの△は何ですか？そして、あなたの△はどこまで繋がっていきでしょうか。今、世界で起きている現実、実はあなたの身の回りと繋がっているのかもしれない。はるか遠くにあるもの同士を結びつける力。女子美魂に期待しています。そして、あなたの未来はゴールフリーです。

1957年長野県生まれ。武蔵野美術大学大学院彫刻科修了。中日展準大賞、現代日本具象彫刻展、愛知万博グレンジア賞等。企画展多数。「異郷化」をテーマに個展21回。



細矢 智寛
短期大学部 造形学科 共通専門
特任助教

私が皆さんに伝えたいことは、大学生活を通して幅広い教養を身につけながら自分の専門を見つけ、その専門性を高めてほしい、ということです。その高めた専門性は、大学をでた後の社会において武器となり、国内あるいは国外の同じ分野の人と戦うときに必ず役に立つものです。ただ、専門性を高めるということは、他者との差別化を意味するものなので、生半可な努力では身につけません。とことん物事を追究し、妥協せず、こだわり、突き詰めてください。その過程を何度もくりかえすことで、武器は身につくはずですよ。

1989年福島県生まれ。流通経済大学法学部ビジネス法学科卒業。筑波大学大学院教育研究科スクール・リーダーシップ開発専攻修了。

退職された先生方

短期大学部 造形学科 共通専門

准教授 鹿島 繭
助教 内田 沙希



学校法人女子美術大学
理事長 福下 雄二

本学は、今から118年前、横井玉子、佐藤志津という二人の女性により、芸術による自立した女性の育成を建学の精神として創立されました。そして今日に至るまで、女性芸術家、デザイナー、美術教師、さらには芸術分野だけでなく社会のあらゆる分野で活躍する数多くの卒業生を輩出してまいりました。皆様には、本学で美術・芸術に係る知識と技術を学ばれ、感性を磨かれ、芸術を創造していく力を身に付けていただけるよう研鑽を積んでいただきたいと思います。そして、人と人との出会いや御縁を大切に、良き友人に恵まれ、良き先生に巡り会い、良き書物に出会えるよう努力していただき、豊かで充実した学生生活を送っていただけるよう期待しております。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たち「女子美」は、新しい仲間となったみなさんを心から歓迎しています。女子美術大学・女子美術大学短期大学部の建学の精神は、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」です。女子美の先生たちは、この言葉の意味を考えながら、美術とデザイン、そして関連する学問の世界で日々制作と研究を実践している人々です。みなさんの先輩たちも、先生たちとともに118年間この精神を受け継いできました。みなさんもこの言葉の意味をぜひ心に留めて、これからの大学生活を送ってください。21世紀は、地球環境・世界平和の問題など、難しい問題が山積している時代です。それゆえに日々の制作と研究を通して、女子美の建学の精神を世界に発信していくことが、私たち、つまりみなさんの使命です。女子美でたくさんの仲間を見つけてください。そしてみなさんの活躍に期待をしています。



学長 横山 勝樹



短期大学部部長
小林 信恵



芸術学部部長
橋本 弘安



大学院美術研究科長
稲木 吉一

KAZUE TAGUCHI NEW YORK

KAZUE TAGUCHI NEW YORK

Q 5 制作・仕事をする上で大切にしている考え方を教えてください。

制作時は好きな音楽をかけ、集中します。複数のジャンルの曲を用意しておきます。1つ1つの制作が次への作品のアイデアへと繋がるので、どんな事も無駄なものはないと思います。また、いろいろな違った考えを持った人と出会い、意見を交換する事もとても刺激的な事です。それが新しいアイデアやコラボレーションに繋がる事もあるので、そういう人が集まる場所に参加する事も大事だと思います。

Q 6 大学時代にやっておくべきことについて、アドバイスをお願いします。

好きな事はどんなジャンルであれ、学び、挑戦していくと良いと思います。女子美はそれらを学ぶチャンスが沢山ある場所です。いろいろな機材なども、学校を卒業すると容易に使えないので、学生のうちにいろいろ利用して、見解を広げておく方が良いと思います。

Q 7 海外で制作・仕事をする事の“楽しさ”を教えてください。

日本にいる時は、あまり日本の文化や自分が日本人である事を実感しませんでした。海外にいると日本の文化を違った視点から見たり、自分自身の再確認にも繋がります。それと私の手から生まれたものが、国境を越え、文化も言葉も違う人達の心に響いた時、何とも言えない感動があります。

Q 8 やりたいことや夢を実現するためのヒントを教えてください。

制作できる事を幸せに感じ、どんな事があっても、それを続けていくのが夢を実現する為の一步だと思います。

Q 9 後輩(女子美生)に一言メッセージをお願いします。

私は女子美卒業後、助成金を得たりしながら、バルセロナ、パリ、ベルリン、ニューヨークなどで制作してきました。全ての都市は東京よりも小さく、女子美時代に都心に住んでいたのは強みで、どこに行ってもおじける事はありません。今、制作の場になっているニューヨークには女子美ニューヨーク支部もあり、沢山の女子美の卒業生達と交流をできる場となっています。時代は違いますが、女子美という貴重な共通点を持ったいろいろな経験をされている先輩方、やる気に溢れた後輩の方とお話をする事はとても励まされます。全て今やっている事が、未来に繋がっています。自分を信じて続けて下さい。



『Llum/stream』
プラスチックシルバークラウド 2011
写真撮影 田中雄一郎



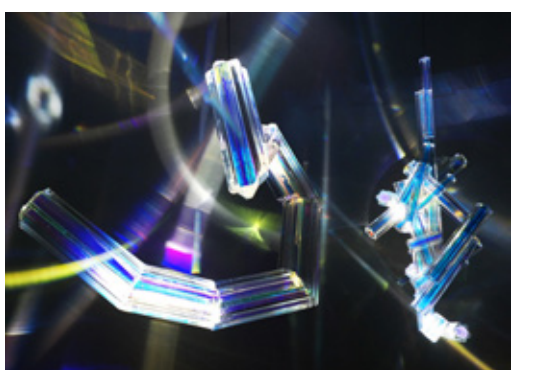
『El aire de l'habela』 リサイクルマテリアル 2015



『Llum/surface』 鏡 2011
写真撮影 田中雄一郎




『Sky Mountain』 鏡、ミクストメディア 2005



『The Mediterranean Landscape No.5』 ガラス 2017

田口 一枝 (たぐち かずえ)
現代美術家。1997年絵画科洋画専攻卒業。2003年バルセロナガラスセンタースタンドガラス科卒業。2005年に文化庁新進芸術家海外留学制度でリッチモンドへ派遣、2007年バージニアコモンウェルス大学大学院ガラス科修了。同年ポーラ美術振興財団助成海外派遣制度でニューヨークへ派遣、以降は欧米を拠点に活動。光を素材としたインスタレーションの作品を国内外で発表、個展・グループ展を開催するほかレジデンス制作、舞台美術を多数手掛ける。



田口 一枝

Q 1 なぜ海外で活動・仕事することを選んだのですか？

大学2年の春に、女子美のヨーロッパツアーに参加し、美術館や名所・旧跡を巡りました。中でも、一番に心を揺さぶられたのが、パリのノートルダム寺院のバラ窓。スタンドグラスは注ぎ込む光によって、多彩に表情を変えます。絵画科の学生だった私はそれを“生きている絵”、太陽の動きと共に形を変える光の芸術だと感じました。その後私は、何世紀も前に建てられた教会が、間近に感じられるヨーロッパでの生活がしたいと思い、当時、物価が安かったバルセロナでスタンドグラスの修行・制作を8年間しました。その制作過程の中で他のガラスの技術にも興味を覚えて、現代ガラスアートが一番盛んなアメリカで自分を試したいと、文化庁新進芸術家海外留学制度を受けてアメリカに渡りました。

Q 2 女子美時代は、どんな学生でしたか？

水戸から都心に移り、沢山の画廊での展示や世界中の本物のアートを間近に見られる環境に感動し、よく行動していました。1、2年の時は、様々な技術を習得しながら、自分がどういうものを制作したいのかを模索していた時期でした。3、4年はポピーの花の毒々しい蕾、その蕾から現れる可憐な花の多面性に惹かれ、ポピーをモチーフにしたリトグラフを制作していました。週末は片道2時間かけて、横浜で、本場ヨーロッパの板ガラスに触れながら、スタンドグラスの個人レッスンを受けていました。興味がある事に、学内外で一生涯懸命になっていた毎日でした。

Q 3 女子美時代の印象深い思い出を教えてください。

学生時代に2回、女子美の学友と銀座のギャラリーで3人展と4人展をしました。DMを自分達でデザインしたり、リトグラフの額装をしたり、展示スペースに実際に作品を設置する事は本当に勉強になりました。その時、初めて作品が売れました。その感動は忘れられません。

Q 4 美大の中でも、女子美を選んだのはなぜですか？

都心で本物のアートを見ながら、学業に励みたいと思っていました。女子美は大勢の素晴らしい先輩を輩出した、伝統のある憧れの美大でした。日本各地から集まった同じ志を持った学生と勉学を共にする事は、とてもフレッシュで充実した時間でした。

「女子美術大学 染織文化資源研究所」開設

染織文化資源研究の更なる推進へ

染織文化資源の技法研究にも寄与しています。

美術学科において研究されてきた測色技術は非破壊による染料解明と連動し、新たな研究の可能性を広げるものです。顔料のナノ化研究は染料素材応用に向けての基礎データとして活用が期待されます。それぞれの研究を横断的に結びつけ「染織文化資源研究」の推進を図るとともに、今後の教育へのフィードバック、素材・技法研究、人材育成を行うことを目的に本研究所は設立されました。

これまで本学は文化財の保存修復事業を数多く手掛けて参りましたが、特に2011年3月11日に発災した東日本大震災で津波被害をうけた染織文化財の修復では国内初となる洗浄技術を実践・確立しました。他にも地域文化資源の修復事業等を通じて地域貢献の一翼を担う形で取り組みを続けています。

今回発足した「染織文化資源研究所」は前段で触れた「保存修復部門」の他に、「研究部門」の2本の柱を軸として、国公立博物館や東京文化財研究所、AMANOプレコロンビアン織物博物館、千総文化研究所等、国内外産業界との連携、加えて本学内の研究組織や染織コレクションを保有する美術館との連携を図りながら研究を推進して参ります。

「保存修復部門」では被災染織文

化資源の脱塩・脱脂による安定化処理の実践による「保存修復技術の確立」、最新鋭の光学測定手法を用いた非破壊による「天然染料分析技術確立と体系化」、これからの修復事業を担う「技術を伴った研究者の育成」をテーマに研究事業を推進します。

「研究部門」では天然顔料について、最新の工学技術を用いた物理的アプローチによる「サブミクロン・ナノ領域粒子による応用創作研究」、「失われた染織文化資源関連技術の解明並びに染織材料の非破壊による解明」後継者不足により「絶滅に瀕する道具や素材の維持開発と供給」をテーマに研究事業を推進します。

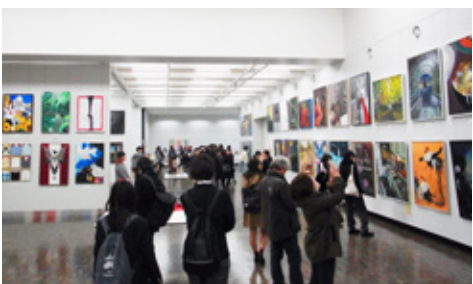
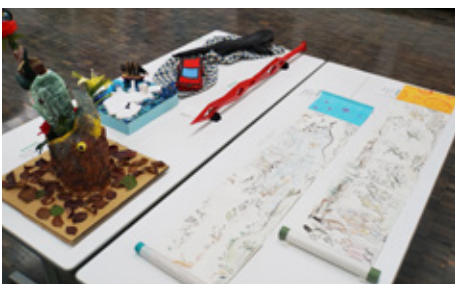
これらの実践・研究は、学術機関として今後の教育へのフィードバック、素材研究、人材育成へと継承していきます。



第64回 神奈川県高等学校美術展を 女子美術大学内で初開催

神奈川県高等学校美術展は神奈川県高等学校総合文化祭行事の一環で、神奈川県下の高等学校の相互連携を図り、高校生の美術・工芸に対する関心を高め、情操の滋養と技術の向上の推進を目的としており、今年で64回目となる伝統ある美術展です。例年、横浜市にある神奈川県民ホールを会場としていましたが、改修工事の実施に伴い休館となり開催が危ぶまれていた際に、ご縁があつて本学が会場校として引き受けさせていただくことに。神奈川県内105校から800点を超える作品が一堂に並ぶことから、本学美術館(JAM)だけでは収まらず、Joshibi SPACE 1900やスタジオ、学生ロビー、大教室前展示スペースなど、全5会場を使う大

規模な展覧会となりました。油絵50号の大作からさまざまな素材の立体作品、アニメーションをはじめとする映像作品、数百点におよぶポスターの原画等が会場に並び様はまさに圧巻。どの作品からも高校生の若さ溢れるエネルギーや素直で柔らかな感性、表現が溢れていてじつくりと鑑賞される来場者の姿を多く見かけました。出品作品から優秀な作品に対して神奈川県知事賞や神奈川県教育長賞、高文連会長賞などが選出されますが、今回限定の特別賞「女子美賞」を主催者が設置。本学からは神奈川県立横須賀総合高等学校2年 田村美琴さんの作品「甘露の通り道」を選ばせていただきました。





03 | 仲條正義客員教授 × 奥村鞞正客員教授 特別講義開催

芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻客員教授の仲條正義先生と奥村鞞正先生による特別講義が10月28日に相模原キャンパスにて開催されました。本講義は毎年デザイン・工芸学科の学生を対象に行われているもので、参加学生はテーマに沿った課題に取り組み、先生方に講評をいただきます。今回のテーマはなんと『仲條正義』。学生たちは仲條先生自身や先生がこれまで手掛けてきた作品を研究・解釈して課題作品を制作し、会場には平面、立体、映像など、大きさも素材も異

なる17作品が集結しました。講義が始まると先生方は作品の一つひとつ観ながら学生のプレゼンテーションに耳を傾け、コンセプトや表現方法について質疑応答。教員としての立場だけでなくひとりの制作者として講評を述べられる場面もあり、学生たちは貴重な機会を逃すまいと皆真剣な眼差しで臨んでいました。プレゼンテーション終了後には仲條賞2作品と奥村賞3作品が発表され、在学生や教職員、たくさんの聴講者が見守るなか特別講義は幕を下ろしました。



「#joshibistogram」

01 | フォトジェニック女子美コンテスト開催 相模原キャンパス中庭をアートで彩る

2017年秋から始まった相模原キャンパスの中庭工事。その無機質な工事フェンスをアートで彩る「フォトジェニック女子美コンテスト」が10月に開催され、思わず写真に撮ってSNSに投稿したくなるような23作品が中庭に集結しました。作品は女子美祭期間中に一般公開され、来場者による人気投票を実施。芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻4年の北村あかねさんの作品「#joshibistogram」が見事ランプリに輝きました。

NEWS — & — TOPICS



04 | ドイツの学術交流協定校と インターネット共同授業 「土・石から顔料を作る」実施

ドイツ連邦共和国バイエルン州にある本学の海外協定校、フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク教育学部と本学芸術学部の共同授業が昨年行われました。両校の学生がそれぞれの地域の石・土などから顔料を制作する実習を、インターネット電話サービスを接続してリアルタイムで複数回に渡り実施。色の標本を国際郵便で交換しながら、最終回までに小作品を制作して、地域に根ざした顔料や近代以降の顔料のことなど、合同授業の実技を通じて感じたことの意見交換を行いました。

フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク 教育学部長 スザンナ博士
女子美術大学 芸術学部長 橋本弘安



02 | 第2回ドローイングシンポジウム 「『ドローイング的なるもの』を求めて」開催

12月8日、杉並キャンパス110周年記念ホールにて第2回ドローイングシンポジウム「『ドローイング的なるもの』を求めて」が開催され、学内から大学院博士後期課程(洋画)在籍中の朝倉優佳さんが、学外からは多摩美術大学教授の岡村桂三郎氏、彫刻家の富井大裕氏、東北芸術工科大学教授の三瀬夏之介氏がパネリストとして登壇しました。美術評論家で本学名誉教授の北澤憲昭先生が基調講演を行い、モデレーターとしてシンポジウムを進行。パネリスト4名は画家、彫刻家の立場から「描

く」「線を引く」といったアクションを見つめ直し、言葉や文字などもドローイングの新しい要素になりうること、デッサン、スケッチ、クロッキーとドローイングの関係性、作品を制作する過程はもちろん、作品そのものにも表れる「ドローイング的なるもの」について議論を重ねました。前回に引き続き多くの方にご来場いただいた今回のシンポジウム。作家と批評家、そして聴講者が一体となってデッサン、ドローイング、造型の現在を見つめる貴重な時間となりました。



アラブ首長国連邦の アブダビ首長国で開催された 「NAJAH Abu Dhabi 2017」に 日本の美術教育機関として初めて参加

本学は10月25日～27日、アラブ首長国連邦(UAE)のアブダビ首長国で毎年開催されている進学フェア「NAJAH Abu Dhabi 2017」に日本の美術教育機関として初めて参加しました。アメリカ、カナダ、レバノンをはじめとする世界各国の高等教育機関がブースを出展するNAJAHは大学プロモーションの場にとどまりません。日本の6大学が出展した日本パビリオンは、現地の生徒や学生に対して日本の文化や魅力を発信し、日本への留学生数拡大へつなげることを目的としています。中東での日本理解を深める一大イベントと評されるなか、教育研究内容を



はじめ、毎夏主催している「女子美インターナショナル・サマー・スクール」の紹介や芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域の学生が制作したアニメーション作品の上映も行った本学ブースは、参加大学の中でも特に注目度が高く、地元紙「The National」から取材を受けるほどの人気でした。日本のアニメやキャラクター、デザインに高い関心を持つ大勢の来場者で賑わった本イベント。初めて本学を知った現地の高校生や大学生からは「サマー・スクールにぜひ参加したい」という声が多く寄せられました。

長野県高山村の地域デザイン制作と 国立台湾芸術大学との交流

長野県高山村の地域づくり活動として、本学短期大学部造形学科デザインコース(テキスタイル)2年生の7名は「ワインを布で包む」をテーマにバッグ、風呂敷などをデザイン提案、短期大学部専攻科造形専攻(情報デザイン)は個人農家3名のロゴマークをデザインしました。10月には、本学と学術交流協定を結んでいる国立台湾芸術大学の学生3名と、本学の学生4名が高山村で取材を行い、高山村を台湾に紹介するポスターを制作しました。また、女子美術大学の「女」と台湾芸術大学の「台」を合わせた「始」という名前のワインブランドを企画し、ワインラベルをデザイン。11月下旬に台湾芸術大学で成果発表が行われ、プロジェクトはドキュメンタリー番組「日本信州高山村台日芸術交流之旅」として12月に台湾の民視無線台(FTV)で放送されました。

短期大学部造形学科
デザインコース(テキスタイル)
2年生の作品「ワインを布で包む」



女子美生4名と台湾芸大生3名の企画によるワインラベルのデザイン



両学長、村長と「高山村を台湾に紹介する」プロジェクトのメンバー



エコプロ2017 ～環境とエネルギーの未来展～

近年よく耳にする“サステナブル”な社会。実現にはエコの力が必要不可欠であり、行政・企業・社会が一体となって参加する事を目的として開催される『エコプロ2017』に、今年も芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻が参加しました。企業との連携を事例に、エコに関する授業取り組みをブース展示とワークショップで紹介。日常生活に植物を取り入れて自然を大切にすることを育むために、種苗会社や合成紙メーカーとの連携から、育てる花のギフトや災害時に有効な生野菜栽培キットの提案など、女性的な感性を活かした温かみのあるプロダクトデザインを展示しました。工業廃材を用いたアップサイクルデザインの提案では、本学学生と付属高校の生徒の作品を紹介。工場の製品生産の過程で廃棄された資材を、デザインの手軽でアクセサリやバッグなどに生まれ変わらせる、そんな素敵な商品の数々に多くの方が足を止めて鑑賞していました。

- 4年生「エコデザイン」授業・産学連携
株式会社サカタのタネ、株式会社ユゴ・コーポレーション
- 有志学生プロジェクト・協力企業
山陽印刷株式会社、チーム等々力(等々力町工場)、株式会社セルタン、ほか
- プロジェクトマネジメント
芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 主任教授 松本博子



マイメリ財団会長 ジャンニ・マイメリ氏 特別講演会

イタリアの絵具会社、マイメリ財団のジャンニ・マイメリ会長をお迎えし、相模原・杉並の両キャンパスで2日間にわたり「芸術と産業:色彩とその知覚」と題する講演会を開催しました。祖父の代から現在に続く会社の歴史や、マイメリ絵具の特徴である添加物をあまり使わないよう徹底した製造方法についてお話いただきました。安全性が高く、高品質を重視した作家のニーズにあった絵具づくりを心がけ、色についても伝統的な

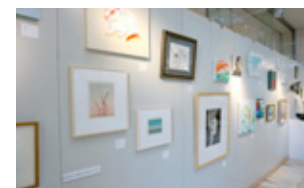
色から近代的な色まで幅広く取り扱っています。本学でも副学長で芸術学部美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生による安全性の高い絵の具作りの研究が行われていることから、講演会後には共通工房「顔料創造ファクトリー」も見学いただき、来校記念のサインには、「唯一無二の経験でした。世界中の国々が見習うべき、美術学校の模範です」と記帳いただきました。

マーラ・セルベツト客員教授 特別講演会



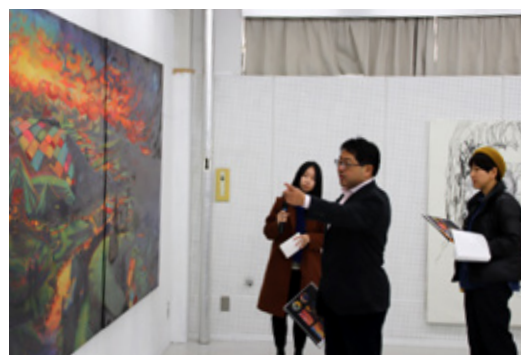
本学の2017年度客員教授であり、イタリアで建築家、空間デザイナーとして活躍されているマーラ・セルベツト先生による特別講演会が、杉並キャンパスで行われました。イタリア・ミラノにあるセルベツト先生のデザイン事務所 (Migliore+Servetto建築事務所) は、建築・空間構成・プロダクト・インテリアなど幅広い分野で業績をあげ、国際コンペ受賞も多数の著名な事務所です。今回は「イタリアの風：女子美生たちのM+Sスタジオにおける冒険」をテーマに、「女子美ミラノ賞」を受賞した卒業生である、小林麻美さん、春草絵未さん、宮園夕加さんの3名がパネリストとして参加。本学の客員教授である佐藤和子先生が司会進行を務め、セルベツト先生のデザイン事務所での学んだ体験について語っていただきました。1年間を振り返り、イタリアの芸術や建築物についての感想や苦戦したこと楽しかったこと、今後の目標についてそれぞれが語り、小林さんは「イタリアでは挑戦しなければ土俵に立てない環境だったの

で、とても度胸がつかえました。この経験を生かして今後は活躍できたいと思っています」と意気込みを話しました。また「イタリアでたくさんの建築物に触れ、新しいデザイン的な自然美が見えてきて、アーティストとしての視野が広がりました」と、笑顔でコメントした春草さん。宮園さんは「言葉の壁で最初はとても苦戦しましたが、自ら積極的にコミュニケーションをとることにより、仲のいい友達もたくさんできました。その結果、さまざまな仕事を任せられ、経験を積むことができました」と、当時の様子を振り返りました。最後にセルベツト先生より、「私たちは若い世代の力を信じています。皆さんのように好奇心旺盛で勉強熱心な若い世代から私たちが影響を受けますし、共に成長できたことを嬉しく思っています。」とお話がありました。また、「完璧を目指すよりも、情熱を持って取り組むことの方が、より大きな結果を生むことができます。」など、これまでのご自身の経験をふまえた励ましの言葉をいただきました。



JOSHIBISETAN 第2弾 開催

伊勢丹と女子美のコラボレーション企画「JOSHIBISETAN」の第2弾が、昨年12月に伊勢丹相模原店で開催されました。クリスマスシーズンの今回は「洋画専攻クリスマスアート展」と題した本学卒業生・教員らの作品50点余りのチャリティー販売や、学生が制作した雑貨の販売、学生によるクリスマスステージイベントワークショップも開催され、盛り沢山のプログラムとなりました。伊勢丹の「おくるをつなぐ、つなぐをつくる Make it Happy!」というクリスマステーマのもとに学生がオーナメントを手掛け、高さ4メートルのクリスマスツリーに展示されるなど、賑やかなクリスマスイベントとなりました。



「Pre Exhibition JUNGLE JUNCTION」展

芸術学部美術学科洋画専攻4年生の有志が企画する卒業制作内覧会「Pre Exhibition JUNGLE JUNCTION」展が今年も12月に開催されました。内覧会初日に現代美術ギャラリストである小山登美夫氏と、卒業生で東京国立近代美術館美術課長の蔵屋美香氏をゲストにお迎えして公開講演会を開催。複数の会場に展示された卒業制作の作品を鑑賞、一人ひとりがコンセプトや作品に込めた想いを話した後、ゲスト

のおふたりより、その場でアドバイスいただきました。総評では「今の時期は描きたいテーマと技術に時間をかけられるから、見つめ直すことも大事」と小山氏。蔵屋氏は「作品に対して言葉で語れる人は少ないが、作品と自分を引き離してギリギリまで言語化して自分の言葉で語れるように。そして、先人たちの表現の工夫を見て学んでほしい」とアドバイスを贈りました。学生にとって色々な発見のある貴重な講演会となりました。

株式会社タイカと産学連携 20年後の自動車内装を提案



本学芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻は2017年度に株式会社タイカと産学連携を行い「20年後の自動車内装」を提案する共同デザイン研究のプロジェクトを実施しました。3年生14名が3つのチームにわかれ、特別招聘教授の山下敏男先生と同専攻主任教授の松本博子先生の指導のもと、20年後の生活環境やターゲットユーザーについて検討し、内装デザインの方向性を決定。同社のデザイナーの方々にアドバイスをいただきながらブラッシュアップを重ねました。11月6日には株式会社タイカ本社にて最終プレゼンテーションを開催。3チームがそれぞれ個性的な提案を展開するなか、同社が研究開発した衝撃吸収素材「αGEL」の使用を想定したチームもありました。プレゼンテーション終了後は優秀デザイン賞の表彰式が開催され、ピンク色、水色、紫色の光を取り入れた「ネオンポップ」をテーマに内装デザインを提案したチームが受賞。細部までしっかりと作り込まれたプレゼンテーションパネルの完成度にも高い評価をいただきました。



16 「女子美×印傳屋」産学連携アイテム販売

株式会社印傳屋 上原勇七の商品開発を目的に行われたデザインコンペティションで最優秀賞に輝いた芸術学部アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域4年生(当時)の高木智佳子さんのデザイン、「Step(ステップ)」が販売となりました。高木さんのデザインは、コンペテーマ「進化 NEXT DESIGN」に対し、『今までにないもの』と『進化』というキーワードからハイヒールがモチーフに。「ハイヒールは、未来へ

踏み出す女性にとって特別な存在……、女の子が女性に成長して新しい一歩を踏み出すイメージと印伝のデザインの進化を意識してデザインを深めていきました」と高木さんは話します。アイテムはがま口財布(黒・赤)とコンパクトミラー(黒・赤)の2型4種類で、2017年12月12日より印傳屋直営店(本店・青山店)で販売されています。



13 洋画専攻×プロダクトデザイン専攻 コラボ企画 女子美「お絵描き少女☆ラッキーちゃん」グッズの販売スタート!

芸術学部美術学科洋画専攻教授の福土朋子先生のオリジナルキャラクター「お絵描き少女☆ラッキーちゃん」に女子美バージョンが誕生しました! 同学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻教授の松本博子先生プロデュースによる第一弾は、トートバッグとメッセージ缶バッジを

販売。今後はポーチやマスキングテープなどのグッズ展開を計画中です。各種商品は相模原キャンパス内コンビニまたは杉並キャンパス1号館株式会社アイシス事務室で販売しています。ぜひ女子美オリジナル「お絵描き少女☆ラッキーちゃん」グッズをお買い求めください。



18 平成29年度 『障害者の生涯学習支援活動』に係る 文部科学大臣表彰式

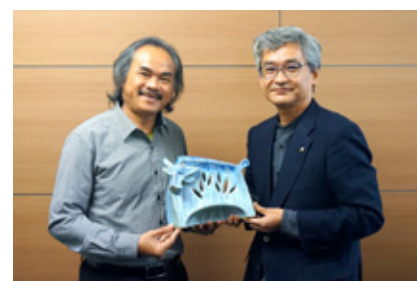
国内における障害者の生涯学習支援について、模範的な支援活動を行う個人・団体を文部科学大臣が表彰する初の式典に、本学芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域教授の川口吾妻先生が選出されました。川口先生は長きにわたり『障害児のためのマルチメディア療育支援ソフト』の開発に携わり、近年では文部科学省からの研究開発の委託を受けて、防災教育・科目教育に活用できるタブレット型端末アプリ開発など、発達障害や知的障害の学習支援を続けてきました。



「Shower」2017年 175cm×220cm 紙本着色 再興第102回院展出品

17 岸野香教授 日本美術院の同人に推挙

芸術学部美術学科日本画専攻教授の岸野香先生が、2017年10月25日付けで公益財団法人日本美術院同人に推挙されました。同人は、同院が主催運営する展覧会の入賞入選回数などによる作家区分の最高位で、人格・芸術を重視し同人全員による推薦投票で決まります。本学卒業生の同人への推挙は、名誉博士の郷倉和子先生、荘司福先生、名誉教授の片岡球子先生、そして岡本彌壽子さんに次ぐ5人目(現存は岸野先生のみ)となります。



15 ハノイ工業美術大学 Nguyen Xuan Nghi 学長来校

2017年、本学と学術交流協定を締結した、ベトナムにあるハノイ工業美術大学グエン・スアン・ギ学長並びにダン・マイ・アイン副学長、グラフィックデザイン学部長ダン・ミン・ヴ先生が相模原キャンパスに来校されました。本学の施設見学の後、横山勝樹学長、芸術学部長橋本弘安先生、芸術学部デザイン・工芸学科長田村俊明先生らと、今後の両学間での具体的な学術交流推進について懇談を行いました。

ハノイ工業美術大学[Hanoi University of Industrial Fine Arts]:ベトナム(ハノイ市)にある美術大学。1949年に創立された「国立基礎技術学校」が前身。1984年に「ハノイ工業美術大学」に名称を変更。優秀な人材育成に取り組み、海外の多くの大学との交流や企業等との産学連携を行っています。



14 南島宏名誉教授 美術評論集 『最後の場所 現代美術、 真に歓喜に値するもの』出版

2016年に急逝された故・南島宏名誉教授の美術評論集『最後の場所 現代美術、真に歓喜に値するもの』(月曜社)が2017年10月に出版されました。今回の美術評論集は、この世を去る日が近いと思わぬまま、南島先生ご自身が刊行の準備を進めていたもので、ご遺族の御意志のもと、芸術学部アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域の倉森京子先生、日沼禎子先生、東京国立近代美術館主任研究員の保坂健二郎氏が編集委員として集まり、出版に至りました。また、10月11日には東京キネマ倶楽部にて出版記念パーティーが開催され、この度の出版のお祝いを行いました。

順天堂
佐藤志津・小川秀興賞

学校法人順天堂と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2016年度より優秀な卒業制作に対して「佐藤志津・小川秀興賞」を授与いただきました。本年度は以下の学生が受賞し、3月12日に中野サンプラザで執り行われた本学学位・修了証書授与式当日、目録が贈られました。選出された作品は順天堂大学病院等に1年間展示されます。



『五色の沼(映)』 小木曾頌子
大学院美術研究科博士前期課程
美術専攻洋画研究領域



『頂上はまだ遠く』 桂田早由香
芸術学部美術学科洋画専攻(絵画)



『春羽』 石井梨奈
芸術学部美術学科日本画専攻

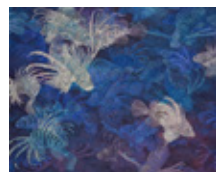


『合掌』 岡島淳和
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学賞

学校法人東京理科大学と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2015年度より優秀な卒業制作に対して「東京理科大学賞」を授与いただいております。本年度は以下の学生が受賞し、3月12日に中野サンプラザで執り行われた本学学位・修了証書授与式当日、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は東京理科大学内に1年間展示されます。

東京理科大学
学長賞



『波情』 今井真以子
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学
坊っちゃん賞



『時、鮮麗に』 黒川美菜
芸術学部美術学科洋画専攻(絵画)

東京理科大学
マドンナ賞



『紡ぐ』 高木なつ実
芸術学部美術学科洋画専攻(版画)

ギオン相模原大賞
ギオン相模原奨励賞
ギオン相模原特別賞

株式会社ギオンは、相模原市に本社を構え「物流・健康・環境」など幅広く事業展開をする総合物流企業で、相模原キャンパスに隣接する「ギオンスタジアム」等のスポーツ施設の指定管理を行うなど、相模原市の地域振興に取り組んでいます。2016年度より同市におけるより一層の芸術文化の発展を目指し、相模原キャンパスに在籍する卒業・修了年次生を対象とする賞を創設いただきました。本年度は、以下の学生が受賞。「ギオン相模原大賞」は副賞として100万円が授与され、作品1点が同社に提供されます。「ギオン相模原奨励賞」は副賞30万円、「ギオン相模原特別賞」は副賞10万円が授与されます。

ギオン相模原大賞	芸術学部 美術学科 立体アート専攻	杉山愛莉
ギオン相模原奨励賞	美術研究科 博士前期課程 美術専攻 版画研究領域	太田絵理
ギオン相模原特別賞	美術研究科 博士前期課程 美術専攻 工芸研究領域 陶コース	高橋萌奈
	芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻	本間あや
	芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻	福田真子

本基金は創立100周年記念事業の一環として、1999年に大村智名善理事長夫妻からの寄付を基に設立されました。本基金の目的(※)のために功績のあった者、および団体に各賞が贈られ、本年度は以下の方々に授与されました。

※本基金は卒業生・在学生の制作・研究など芸術活動の奨励、アーティストおよび研究者の育成を主な目的としています。

2018年度(第19回)
女子美パリ賞

[副賞 100万円]
[パリ国際芸術都市アートエ使用権]

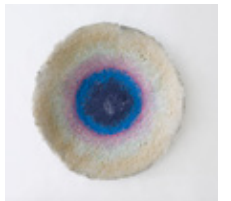


『中心』
シルクスクリーン

井上麻由美
2012年3月 芸術学部
ファッション造形学科 卒業

2018年度(第12回)
女子美ミラノ賞

[副賞 100万円]
[ブレラ国立美術学院にて6ヶ月間研究・留学]



『環わ work』
古石の織布(絹)、楮、雁皮/紙漉き

我如古 真子
2002年3月 短期大学部 服飾科 服飾デザインコース 卒業
2003年3月 短期大学部 専攻科 服飾専攻 修了
2006年2月 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 学士(芸術学)取得
2017年3月 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 環境造形専攻 修了

2017年度(第17回)
女子美制作・研究奨励賞

[副賞 各20万円]

新井陽子

2007年3月 鶴見大学 文学部 文化財学科 2年次退学
2009年3月 東海大学 教養学部 芸術学科 美術学課程 卒業
2011年3月 大学院 美術研究科 修士課程 芸術文化専攻
美術史研究領域 修了

学芸員としての経験及び文化遺産保護の国際協力に関わる研究の奨励による受賞。



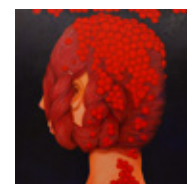
『いしをもって眠りたい』
御影石、小松石など/インスタレーション



『西大分港 イベント「Sofa」公開制作』
水性ペンキ

2017年度(第16回) 大学院・大学・短期大学部 女子美美術奨励賞 [副賞 各10万円]

ジュファン
徐凡(台湾)
大学院 美術研究科
博士前期課程 美術専攻
洋画研究領域 2年次在籍



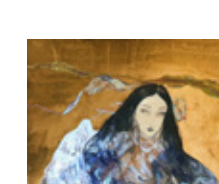
『意識を覆っている』
油彩

キム スミ
金秀美(韓国)
芸術学部 デザイン・工芸学科
ヴィジュアルデザイン専攻
4年次在籍



『人間』
針金

ジョジョウチイ
徐翔亭(台湾)
短期大学部
造形学科 美術コース
2年次在籍



『14個の瞬間について』
岩絵の具

2017年度(第4回)
葦崎大村美術館賞

[副賞 記念品]
[葦崎大村美術館での作品展示]

福留美奈

2015年3月 芸術学部 立体アート学科 卒業
2017年3月 大学院 美術研究科 博士前期課程 美術専攻
立体芸術研究領域 修了



『葡萄』
石膏

2017年度 大村特別賞 [副賞 記念品]

OMODOC(オモドック)

アートによる東日本大震災の被災地における子供支援プロジェクト。メディアアート学科で発足したが、アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域で活動を受け継ぎ、「みんなであつなげるアニメーション」他のプロジェクトにより、子供や大人のストレスをアート活動を通じて、ケアする活動をしている。

女子美術大学同窓会イタリア支部

代表:野尻奈津子

在学生の短期留学、ミラノ賞受賞者、ミラノインターンシップ学生を支援し、とりわけミラノ賞受賞者に対して生活面、精神面、語学面などのケアをしてきた。母校に誇りをもって、次世代の若手を育成するために支援をしてきている。その一連の活動により、大学へ貢献をした。

第24回全国高等学校写真選手権大会

「写真甲子園2017」

受賞者:古池安由実、加藤千夏、関口きらら

女子美術大学付属高等学校 2年 在籍

第24回全国高等学校写真選手権大会

「写真甲子園2017」全国大会出場優秀賞(旭川市長賞)受賞

廣瀬由子

女子美術大学付属高等学校 3年在籍

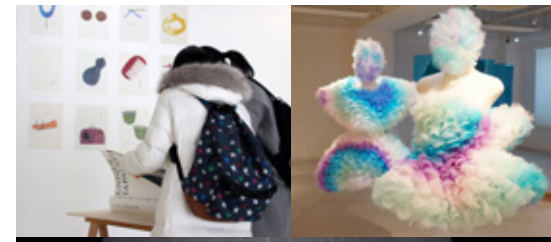
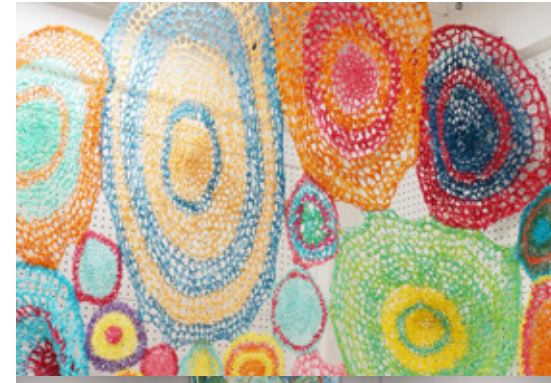
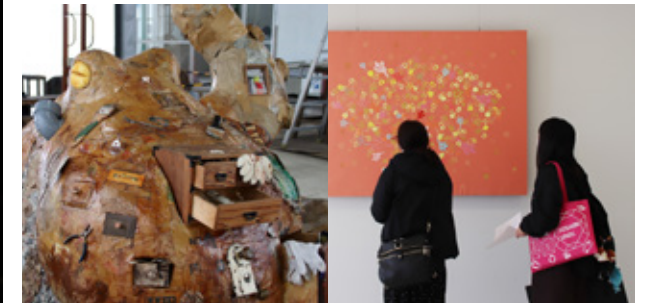
「トビタテ!留学JAPAN」日本代表プログラム(高校生コース)採用
第20回図書館を使った調べる学習コンクール
高校生の部 文部科学大臣賞

10th Asia Lighting Conference(中国上海照明学会)高校生として、初のポスター発表 他

2017年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

2017年度卒業制作展／ 修了制作展、開催

3月9日～11日、杉並と相模原の両キャンパスで芸術学部・短期大学の2017年度卒業制作展／修了制作展が開催されました。開催期間最終日には大学院博士前期課程芸術文化専攻修士論文発表会が相模原キャンパスで開催。学生生活の集大成である卒業制作や、同期間に開催された大学院の修了制作を鑑賞するため、多くの来場者がキャンパスを訪れました。



女子美術大学美術館奨励賞

大学院博士前期課程	
小木曾頌子	美術専攻洋画研究領域
膳棚久穂	美術専攻日本画研究領域
中里 葵	美術専攻版画研究領域
中田百露	美術専攻工芸研究領域
宋 伊雪	美術専攻立体芸術研究領域
奥原知奈	デザイン専攻メディア研究領域
鈴木亜優	デザイン専攻ヒーリング研究領域
欧陽子璇	デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域
彭 佳瑋	デザイン専攻環境デザイン研究領域

芸術学部	
印藤有希	美術学科洋画専攻
仲村百合子	美術学科日本画専攻
田附希恵	美術学科立体アート専攻
安藤早紀	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
水岡奈緒子	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
左高千裕	デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
志澤京香	デザイン・工芸学科 工芸専攻
伊石萌花	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
高木智佳子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
松野詩音	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
島田茉依	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部	
関 彩香	造形学科美術コース

短期大学部	
小橋 侑	造形学科美術コース
加野ちひろ	造形学科美術コース
上村美波	造形学科美術コース
菊見ひかり	造形学科美術コース
中澤黎美	造形学科美術コース
中屋美佑	造形学科デザインコース 情報デザイン
畑江明香里	造形学科デザインコース 情報デザイン
重清美咲	専攻科造形専攻 美術コース
鈴木里菜	専攻科造形専攻 美術コース
伊藤みずき	専攻科造形専攻 創造デザインコース
仁平春希	専攻科造形専攻 創造デザインコース

優秀研究賞

芸術学部	
山口友梨江	美術学科美術教育専攻
石本真菜	美術学科芸術文化専攻
矢島由梨	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

大久保婦久子賞

大学院博士前期課程	
土屋紀代美	美術専攻洋画研究領域
吉田晴美	美術専攻日本画研究領域
太田絵理	美術専攻版画研究領域
宋 伊雪	美術専攻立体芸術研究領域
戴 熙為	デザイン専攻メディア研究領域
鈴木亜優	デザイン専攻ヒーリング研究領域
王 環怡	デザイン専攻アートプロデュース研究領域
藤井有紀	デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域
胡 佳鑫	デザイン専攻環境デザイン研究領域
杉田花奈	芸術文化専攻美術史研究領域
中田茅里	芸術文化専攻美術教育研究領域

女子美術大学美術館賞

芸術学部	
安藤早紀	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻

優秀作品賞

芸術学部	
大沼七海	美術学科洋画専攻
小野澤香織	美術学科洋画専攻
葛馬七星	美術学科洋画専攻
鈴木沙也果	美術学科洋画専攻
三浦なつみ	美術学科洋画専攻
本間ナナ	美術学科洋画専攻
児玉わか奈	美術学科日本画専攻
徐秀晶キャサリン	美術学科日本画専攻
森 紀子	美術学科日本画専攻
吉田遥香	美術学科日本画専攻
浦和真優子	美術学科立体アート専攻
増田麻由	美術学科立体アート専攻
江花はるか	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
亀岡奈々	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
澤井映希	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
安田桜子	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
芳沢美穂	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
大出優香	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
小塩葉月	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
服部 海	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
丁 冉	デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
飯岡留菜	デザイン・工芸学科 工芸専攻
福田真子	デザイン・工芸学科 工芸専攻
岡崎 優	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
高橋史実	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
林 沙也加	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
干場百恵	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
安居莉佳	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
利光七海	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
三上明日香	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
鈴木 蘭	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
中川美優	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

加藤成之記念賞

大学院博士前期課程	
徐 凡	美術専攻洋画研究領域

芸術学部	
印藤有希	美術学科洋画専攻
今井真以子	美術学科日本画専攻
持田果穂	美術学科立体アート専攻
村田菜摘	美術学科美術教育専攻
石本真菜	美術学科芸術文化専攻
中島千夏	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
土井美智子	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
園松千裕	デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
福田真子	デザイン・工芸学科 工芸専攻
安居莉佳	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
高木智佳子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
黒澤 花	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
矢島由梨	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部	
星畑ひかり	造形学科デザインコース 創造デザイン
中島玲衣	専攻科造形専攻美術コース

福沢一郎賞

大学院博士前期課程	
徐 凡	美術専攻洋画研究領域
中里 葵	美術専攻版画研究領域

卒業制作賞

芸術学部	
今中菜月	美術学科洋画専攻
田中美紗	美術学科洋画専攻
山下 結	美術学科洋画専攻
黒川美菜	美術学科洋画専攻
三浦美莉子	美術学科日本画専攻
杉山愛莉	美術学科立体アート専攻
早川志織	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
星野絢香	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
金 秀美	デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
桑原 唯	デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
安田野乃香	デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
吉岡 桜	デザイン・工芸学科 工芸専攻
伊石萌花	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
関口果菜	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
陳 宇飛	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
江場彩香	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

短期大学部 造形学科	
関 彩香	造形学科美術コース
吉田理奈	造形学科美術コース
館 七葉子	造形学科デザインコース 情報デザイン
寺尾 緑	造形学科デザインコース 情報デザイン
安部由悠	造形学科デザインコース 創造デザイン
花澤亜矢佳	造形学科デザインコース 創造デザイン
丸山百恵	造形学科デザインコース 創造デザイン

卒業研究賞

芸術学部	
村田菜摘	美術学科美術教育専攻
杉野円香	美術学科芸術文化専攻
楠藤若菜	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

JAM

平成29年度 女子美術大学退職教員記念展

1.10(水) - 1.31(水)

平成29年度に本学を定年退職される芸術学部デザイン・工芸学科環境デザイン専攻教授飯村和道先生の展覧会を開催しました。

平成29年度 女子美術大学大学院修了制作作品展

3.11(日) - 3.17(土)

平成29年度に大学院美術研究科を修了する美術専攻(洋画、日本画、版画、工芸、立体芸術)とデザイン専攻(ヴィジュアルデザイン、環境デザイン)の各研究領域を専攻した学生の作品を展示しました。

女子美ガレリアニケ

第10回五大学合同写真展 ○展

11.10(金) - 11.25(土)

女子美術大学・東京工芸大学・長岡造形大学・多摩美術大学・中国伝媒大学の五つの大学でそれぞれ写真を学ぶ学生の写真作品を展示しました。

JOSHIBI AP Graduate Degree show 2017

1.19(金) - 1.30(火)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院生による卒業・修了制作の展示でした。

平成29年度 女子美術大学
大学院修了制作作品展

3.11(日) - 3.17(土)

平成29年度に大学院美術研究科を修了するデザイン専攻(メディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュース)の各研究領域を専攻した学生の作品を展示しました。

歴史資料展示室

女子美人物史展 10.25(水) - 3.11(日)

創立110周年を記念して刊行された『女子美術教育と日本の近代-女子美110年の人物史』の中から日本画科、西洋画科、刺繍科、裁縫科、工芸科、デザイン科の教育に取組んだ教員たちを紹介しました。

JAM

収蔵作品展

「現在への起点 女子美版画コレクションを中心に」

4.18(水) - 5.26(土)

美術館では開館以来、優秀な卒業制作、修了制作の収蔵を続けており、その中から1979年～2009年までの30年間に渡り収蔵してきた版画専攻の卒業制作作品を中心に紹介、さらに、卒業後も作家として精力的に活動している卒業生の作品も合わせて紹介します。

女子美術大学・ラフバラ大学合同展覧会

～オリンピックと文化! 過去・現在・未来・つながり～

7.4(水) - 8.1(水)

本学の学術交流協定校であるイギリス、ラフバラ大学とアートとデザインをとらえてスポーツと文化を結びつける共同研究プロジェクトとして合同展覧会を開催します。

平成30年度女子美術大学

大学院博士後期課程 研究作品発表会 8.6(月) - 8.10(金)

平成30年度前期に本学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻(洋画)修了予定の朝倉優佳の研究作品発表会。

女子美ガレリアニケ

ニケキュレーターズセレクション#03 帆足枝里子展

4.13(金) - 5.23(水)

今後の活躍が期待される作家をガレリアニケ芸員が取り上げる企画の第3弾。今回は2016年に本学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻(立体芸術)を修了した帆足枝里子を紹介いたします。

「日独伊親善図画 -80年前の児童画を巡って」

6.1(金) - 6.6(水)

本学博士前期課程修了予定者による企画。森永製菓(株)が1938年に企画した日独伊3カ国の児童を対象とした児童画コンクールの研究をまとめ発表します。

世界のバリアフリー児童図書展 in 女子美

-IBBY選定バリアフリー児童図書2017年度コレクション-

6.15(金) - 6.27(水)

バリアフリー 絵本の理解と必要性を広めることを目的とした児童絵本展。「国際児童図書評議会 (IBBY) 障害児図書資料センター」の2017年度コレクション(約20カ国から50タイトル)を中心に紹介します。

女子美術大学短期大学部1年前期基礎造形展

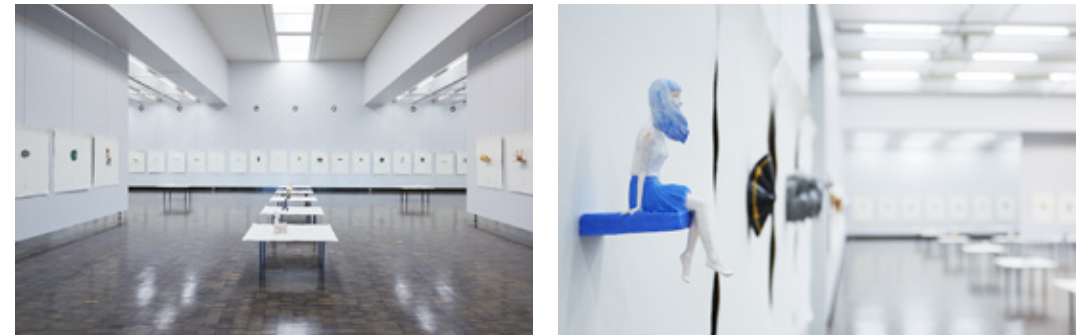
7.6(金) - 8.1(水)

短期大学部1年生が自由選択授業で制作した基礎造形18講座の学生作品を展示します。

歴史資料展示室

『女子美の衣服教育 -その歴史と現在-』展 前期 5.23(水) - 8.3(金) 後期 9.12(水) - 2019.1.25(金)

『女子美術大学と衣服教育-その歴史と現在-』出版を記念して、収集した資料を中心に展示紹介いたします。



撮影:本多康司

2017.11.8(水) - 11.28(火) 相模原 女子美アートミュージアム

「彫刻の五・七・五 HAIKU-Sculpture 2017
-かたちで詠む春夏秋冬-」展

「彫刻の五・七・五」展は、2007年に沖縄県立芸術大学で立ち上げられた彫刻の展覧会です。7回目となる本展では女子美術大学が開催校となり、国内外の芸術大学24校223名の参加がありました。首都圏で主要美術大学が一堂に会する展覧会ということもあり、美術関係者や愛好者から注目を集めただけではなく地域の方にも多くお越しいただくことができました。展覧会初日にはシンポジウムを開催し、本学名誉教授 北澤憲昭先生にご登壇いただきました。北澤先生の基調講演の後、出品者の先生方によってディスカッション形式でお話いただき、作品作りと本展覧会への臨み方、美術大学で教えることの意味やこれからの発展、展開についてのお考えをお聞きしました。



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 伊藤雅敏・李谷吉也
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2018年4月2日
© 2018 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

広報グループ TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <http://www.joshi.ac.jp>